

# R80を活用した 振り返りにおけるシェアリング

～「自己開示」を基盤とした振り返りの充実～

三原市教育委員会

## 1 はじめに：なぜ、振り返りにおいてシェアリングが不可欠なのか？

日々の授業において、子どもたちが主体的に学び、互いに高め合う学級をつくるためには、授業終末でR80を用いて学びを整理することとそれを共有する「シェアリング」の充実が不可欠です。その基盤となるのが「自己開示」です。自分の考えを素直に表現できる環境（心理的安全性）があることで、個の学びは更に深まり、互いを尊重し合う学級集団へと成長していきます。

## 2 シェアリングの意義と効果：5つの「あ」

子どもたちがペアや全体で個人のR80を活用した振り返りをシェアリングすることには、学力向上と豊かな人間性の育成の両面において、主に次の5つの意義と効果があります。

### (1) 頭の整理ができる

自分が学んだことや考えたことを、言葉にして相手に伝える（言語化する）プロセスです。

本時で学んだ知識や概念が頭の中で整理され、曖昧だった理解が明確になります。「アウトプット」を行うことで、記憶の定着（インプットの強化）へとつながります。



### (2) 新しい視点がもらえる

自分と異なる友達の意見、解き方、感じ方に直接触れる機会です。

「そういう考え方もあるのか！」という気づきから、物事を多角的な視点（別の角度）で見ることができるようになります。思考の柔軟性や批判的思考力、新たな課題を発見する力が育ちます。



### (3) 安心して言えるようになる

失敗や間違いを恐れず、自分のおりのままの考えを表現できる状態です。

「間違えても大丈夫」「否定されない」という安心感があるため、より深い自己開示（本音の振り返り）ができるようになります。授業への参加意欲が高まり、主体的に学ぶ態度が養われます。



### (4) 相手を大切にして聴けるようになる

友達の言葉にしっかりと耳と心を傾け、共感しながら聴く態度を育てることです。

単に音として「聞く」のではなく、相手の思いを尊重しながら「聴く」習慣が定着します。

他者への共感性や思いやりの心が育まれ、学級全体の人間関係が豊かになります。



### (5) 相手に認められる

毎時間の授業の中で、自分の考えや振り返りを友達から肯定的に受け止めてもらう経験です。

日常的に「認められる」経験を重ねることで、子どもの自己肯定感が高まります。

「自分の考えには価値がある」という自信が、次の学習への強力なモチベーション（意欲）となります。



### 3 R80を活用した振り返りの展開ステップ

効果的な振り返りを日常化するために、R80を活用した振り返りの具体的な5つのステップに沿って進めます。

#### (1) まずは自分と向き合う(R80を書く)

授業の終末に、個人の振り返りをノートやプリント、Chromebook等に記述する。

一人ひとりが静かに自分自身と向き合い、本時の学びをじっくりと定着させる時間です。2文、80字、2文目の頭に接続詞のルールを忘れないでください。



#### (2) ペアによるシェアリング

2人組になり、記述した振り返りを互いに伝え合う。

2人組であるため、必ず発言の機会をもてます。

身近な相手に言葉にすることで、上述の「あたまとの整理」が効果的に促されます。

相手の言葉を受け止めるために傾聴の姿勢が大切です。



#### (3) 肯定的評価(お互いに「いいね!」を伝える)

ペアによるシェアリング後、互いのR80を活用した振り返りについて肯定的な評価(良かった点や共感した点)を伝え合う。

「あいてに認められる」場を仕組みとして保障します。

これにより安心感と自己肯定感が高まり、次回の振り返りへの意欲につながります。



#### (4) 全体シェア(みんなでシェアする)

学級全体に向けて、振り返りの内容を共有する。

※初期は教師の意図的指名でもよい。

理想はペアの相手からの他薦による。

学級全体に「あたらしい視点」を広げます。

学びが成熟してきたら、「この視点をみんなに広げたい!」という他薦に移行することで、子ども主体の対話へと進化します。



#### (5) 価値づけ(先生からのアドバイス)

教師は、全体でシェアした振り返りの「視点のすばらしさ」等を具体的に価値づける。

教師が価値づけを行うことで、子どもたちは「どのような視点で振り返ればよいか」の好事例を学びます。

これにより、今後の子どもの振り返りの視点がさらに深化していきます。



R80を活用した振り返りにおけるシェアリングは、単なる「授業のまとめの時間」ではなく、子ども自身が学びの主役となるための「次の授業への架け橋」です。

5つの「あ」を意識した温かい学級土壌を耕しながら、R80を活用した振り返りにおいてペアと全体のシェアリングを日常化していきましょう。

子どもたちの「書く力」「聴く力」「認める心」が目に見えて育ち、それが確かな学力向上へとつながっていきます。